

## 「行革甲子園 2018」エントリーシート

### 【取組の内容】

#### 1 取組事例名

公設民営の有床産婦人科医院建設

#### 2 取組期間

平成29年6月1日開院

#### 3 取組概要

山梨市立産婦人科医院は、女性の幸せを願い、健康・妊娠・出産・育児を支援し、この地域に将来に渡って継続した産科医療を確保するため、全国初の試みとなる公設民営の有床産婦人科医院として開院しました。施設の管理運営は指定管理者であります医療法人 東雲会が行っています。

施設内は、診療所としては最大の19床のベット数を確保し、多くの妊産婦の方がゆっくりと静養でき、安心して退院できる体制を整えています。

また、通常の出産コースに加えて、育児支援を必要とする方には「宿泊型産後ケア事業」として、引き続き同施設内において、出産に携わった助産師やスタッフから心身のケアや育児サポートを受けられることも大きな特徴です。

この施設を利用される皆様が、安心して出産・育児を迎えられるよう、さらには、「育児は嬉しい楽しい」と実感されて、第2子、第3子の尊い生命の誕生を向かえられるよう期待されています。

#### 4 背景・目的

宿直が多いなど勤務が過酷なため、全国的に産科医は減っています。産科医を確保できないために出産を扱う医療施設も減っていて、出産できる県内の医療施設は、平成16年に24か所ありましたが、15か所まで減少しています。また、地域的な偏りも深刻で、多くが甲府市など県の中央部に集中しています。このような中、山梨市駅南口にあり、市内で出産ができる唯一の診療所だった「中村産婦人科医院」が南口広場整備のため市外への移転が検討されていました。しかし、少子化の傾向が顕著な本市は、『山梨市総合戦略』で「安心して子どもを産み育て、生きがいをもって暮らせる山梨市」を掲げ、出産しやすい環境づくりに向けて、妊娠期から出産、子育て期へと切れ目のない支援体制を構築することとし、公設民営方式で整備することとしたものです。

## 5 取組の具体的内容

- 所在地 山梨県山梨市上神内川 172 番地
- 診療科目等 産科、婦人科、一般病床 19 床
- 診療時間 月・火・木・金 午前 9 時～ 12 時、午後 3 時～ 6 時  
水・土 午前 9 時～ 12 時  
休診日 日曜・祝日・第 5 土曜日
- 面積 敷地面積 4,882.08 m<sup>2</sup>  
建築面積 1,558.65 m<sup>2</sup>  
延べ床面積 1,674.18 m<sup>2</sup>
- 建築構造 鉄筋コンクリート造 (RC 造) 地上 2 階建て
- 駐車場 来院用駐車場 30 台、職員用駐車場 24 台
- 施設内容
  - 1 階 <外来部門>…約 730 m<sup>2</sup>  
診察室 1 ～ 14 (診察室、内診室、エコー室、問診室)・処置室・計測室・採血室・多目的室・外来スタッフステーション・分娩室 1・2・3・回復室・リラクゼーションルーム ※LDR 出産対応 2 室…陣痛室から分娩室への移動不要
  - <病棟>…約 570 m<sup>2</sup>  
個室 11 室・4 床室 2 室・レストラン・新生児室・授乳室・談話コーナー・相談室・応接室 他
  - 2 階 <医局>…約 195 m<sup>2</sup>  
院長室・看護師長、看護室・医師当直室 他
- 総事業費 12 億 2,400 万円 (用地取得費、補償費、工事請負費、委託費等)  
特定財源 10 億 9,900 万円 (県補助金、他団体補助金、合併特例債、その他)  
一般財源 1 億 2,500 万円
- 指定管理者 医療法人 東雲会  
運営スタッフ 医師 4 名・助産師 14 名・看護師 6 名・その他 14 名
- 指定期間 20 年間
- 指定管理料 なし (利用料金制)  
指定管理者納付金として、前年度の利益剰余金の 18% を市へ納付
- 市実施事業 妊娠出産包括支援事業  
<宿泊型>産後の不調や育児不安に対応、1 回 3 泊まで 1 泊 2 食 5,100 円  
<訪問型>当院の助産師が産前産後に 3 回家庭訪問  
<デイサービス型>多目的室にて産後 4 か月までの母親と乳児が集える場を提供

## 施設紹介

山梨市立産婦人科医院は、妊娠、出産、育児等、女性の各ライフステージに応じた健康支援を行います。

施設内のベッド数は19床で、多床室も広く、プライバシーに配慮した設計になっており、多くの妊産婦の方がゆっくりと静養でき、安心して退院できる体制を整えています。

## 受付



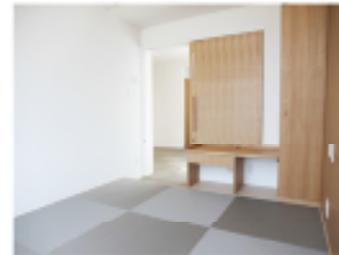
広々とした受付と待合。優しい木のぬくもりを感じられます。

## 多目的室



日差しがよく入り明るく、冬は床暖房の温かいお部屋です。リラックススペース「ふわふわ」や妊産婦さん向けの健康教室を行います。

## 和室（個室）



畳敷きの和室なら、上のお子さんと一緒にのお泊りも安心！リラックスして快適な時間を過ごせます。



## レストラン



妊産婦さんが席についてから調理を始めるので、いつも出来たて！が食べられます。待ち時間は、テーブルのみんなでおしゃべり。情報交換ができると好評です。

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

市では、妊娠出産包括支援事業として、3つの事業を当院で実施しています。訪問型は、当医院で出産する妊産婦の妊娠中から産後まで3回の助産師訪問を委託し、妊娠、出産、産後と継続して、同じチームの助産師が支援を行えるよう体制を整えています。デイサービス型は、市が多目的室を利用し、産後4か月までの母親が乳児を連れて、安心して集える場として、また、当医院の助産師や市の保健師などに気軽に相談できる場を開設しています。また、宿泊型産後ケア事業を委託し、出産後の不調や育児不安が強い母親を、当医院に宿泊させ、出産に携わった助産師やスタッフらが、心身のケアや育児サポートを行っています。また、必要に応じて、医療につなげることも容易であり、より安心して過ごすことが可能となっています。

### ■二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の活用（補助率2/3）

再生可能エネルギーの地下水熱を利用したデシカント空調設備を完備し、二酸化炭素の排出量を抑制した環境にやさしい施設となっています。また、通年で適正湿度を保つことにより、細菌類・ウイルスなどの菌の繁殖防止が可能となり、院内感染リスクを低減しています。

### ■石油製品利用促進対策事業費補助金の活用（補助率1/2）

大規模災害が発生し、電気やガス等のライフラインが途絶した場合でも、数日間は機能が維持できる非常用発電機を設置しています。

### ■有床診療所スプリンクラー施設整備費補助金の活用（補助率10/10）

## 7 取組の効果・費用

昨年度の月平均分娩数は、28件、外来患者数は1,357人ですが、今年度、4月から8月までの予約状況は、月平均39件となっており、増加傾向にあります。

利用者の内訳を見ますと、里帰り出産も含め、市外の方が4割、市民の方は6割となっています。

当医院で実施している、産後の不調や、育児不安がある母親と乳児を対象とした「宿泊型産後ケア事業」では、昨年度6件の利用がありました。

また、多目的室を利用し、産後4か月までの母親が、乳児とともに集える「デイサービス型事業」については、昨年度283組の親子の利用がありました。

助産師による妊娠、及び新生児家庭訪問については、昨年度の利用が74件あり、産前産後の母親の心と体の健康管理や、大切な子どもたちの健康支援のための、新たな拠点として“根付き”をはじめました。

出生数は、毎年15%程度の減少で推移してきましたが、今年の母子手帳交付数から推計した減少率は0%と少子化に歯止めがかかったものと考えられます。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

医療法適用の産婦人科医院で、多目的室を活用した市事業を実施するにあたり、医療法適用除外スペースとする必要がありました。また、医療を受ける人と多目的室を利用する人との動線に配慮するとともに、洗面所など区分する必要がありました。

妊娠出産包括支援事業の委託に関しては、医療法人への委託ができないため、株式会社への委託となりました。また、医療法上の広告制限にも配慮を必要としました。

指定管理者納付金として、前年度の利益剰余金の18%を市へ納付する協定となっており、平成29年度（初年度）は、1,900万円を納付してもらいました。今後の経営状況によっては、この納付額が変動することになります。

## 9 今後の予定・構想

本市は、長期ビジョンにおいて『おなかの中から一生涯安心の山梨市』を掲げ、出産・子育て環境がとてども充実していて、「子どもを産み育てるなら山梨市！」と市内外から評価されることを目指しています。

現在は、不妊治療費の助成に始まり、妊娠期の各種通院サポート、助産師家庭訪問、医療費の無料化、子育て用品購入券進呈、第3子出産祝い金、子育て優待カード発行など就学時まで、切れ目のないサポート体制を用意しています。今年度から、子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）がスタートしました。

今後は、不妊又は不育に関する相談窓口の開設と就学前の療育支援事業の構築を検討する予定です。当医院を核として、山梨市民のみならず、山梨県に生活する女性がライフステージの全てにおいて、常に健康で自分の理想を追い求め、自分らしくいきいきと輝くことができる環境を整えていきます。

## 10 他団体へのアドバイス

一般的に地域の医療は、一次救急である診療所等が担い、そこから二次、三次救急へと患者が紹介される形が効率的と考えられています。しかし、産科においては、診療所の数が少なく効率的な形となっていないのが現状であります。

地域に、産婦人科の診療所が存在し、問題のない分娩は地域で行い、手術が必要な婦人科疾患は大きな病院で手術を行う、その前後のフォローは地域の診療所で行い、地域の住民が気軽に通うことができること、また、深夜でも電話がつながる診療所が存在することは地域住民にとって安心できるものと考えます。

## 11 取組について記載したホームページ

施設内容及び運営状況は、指定管理者である医療法人東雲会ホームページ <http://shinonomekai.jp> で閲覧できます。当医院で実施している市実施事業は、山梨市ホームページで紹介しています。